

<p>【技術の名称】 TGパイル工法 -先端翼付き回転貫入鋼管ぐい工法- (改定1)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第15-26号 改1 性能証明発効日：2023年10月16日</p> <p>【取得者】 タイガー産業株式会社</p>
---	---

【技術の概要】

本技術は、先端に独自形状のスパイラル状の先端翼と掘削刃を有する鋼管を回転貫入し、これをくいとして利用する技術である。なお、本工法の地盤から定まる押込み方向の許容鉛直支持力については、国土交通大臣の認定：TACP-0670,0671 (令和5年10月13日) および、一般財団法人日本建築総合試験所の性能評価：GBRC 建評-23-231A-001,002 (2023年7月21日) を取得しており、この性能証明は、本技術により設計・施工されたいの地盤から定まる引抜き方向の支持力の評価に関するものである。

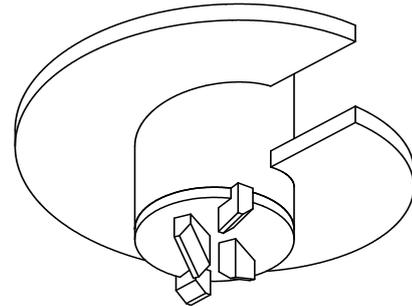


図-1 杭材の先端形状

【改定・更新の内容】

- 新規：GBRC 性能証明 第15-26号 (2016年2月24日)
 改定1：GBRC 性能証明 第15-26号 改1 (2023年10月16日)
- ・くいの仕様を追加 (材質、くい軸径、拡翼径、拡翼厚さ、TG ジョイント)
 - ・適用範囲の拡大 (最大施工深さおよびくい先端付近の平均 N 値)
 - ・くい先端より上部地盤の耐力検討の規定を変更 (先端地盤：粘土質地盤)
 - ・材料製作会社に指定制度を導入

【技術開発の趣旨】

本工法の特徴は、施工に際し周辺の地盤を乱しにくい独自形状の螺旋状の先端翼、および施工時に鋼管くいの推進力を高める独自形状の掘削刃を有していることである。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、単ぐいとしての引抜き方向の支持力についてのみを対象としており、以下の通りである。

申込者が提案する「TG パイル工法 設計指針」および「TG パイル工法 施工指針」に従って設計・施工された先端翼付き鋼管くいの短期荷重に対する引抜き方向の支持力を定める際に必要な地盤から定まる極限引抜き抵抗力は、同設計指針に定める標準貫入試験の結果に基づく支持力算定式で適切に評価できる。

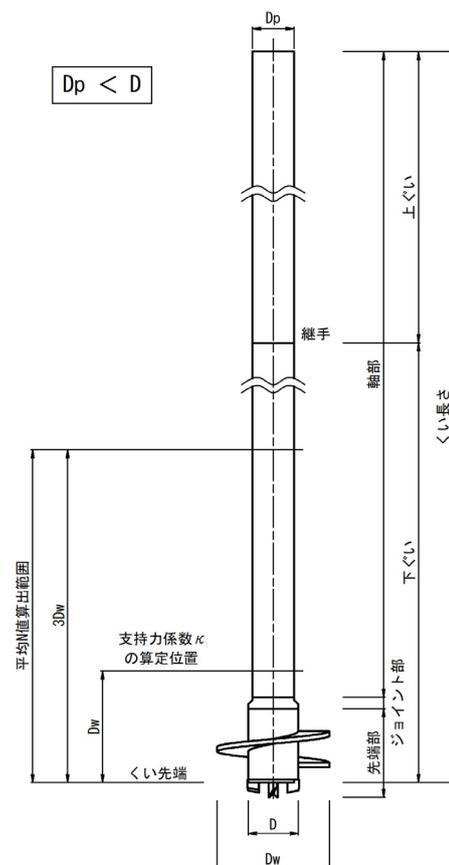


図-2 基礎ぐいの構造 (TG ジョイント有の場合)

表-1 TG パイルの仕様

本体部	先端部			TG ジョイント*	翼本体部 軸径比 Dw/Dp
	軸径 Dp(mm)	先端部軸径 D(mm)	翼径 Dw(mm)		
76.3~406.4	89.1~457.2	240~1180	2.04~3.06	有	2.35~4.37
				無	2.04~3.06

【本技術の問合せ先】

タイガー産業株式会社 担当者：上原 明香
 〒904-2234 沖縄県うるま市宇州崎 12 番 11

E-mail：a-uchara@tiger-sg.co.jp
 TEL：098-982-1915 FAX：098-982-1916